

ポリエステルロープ ESR (支柱用親網)



■特長

- ・高強度、低伸度のポリエステル原着糸を使用しています。

■用途

- ・高所作業における墜落防止

■製品規格

材質	ポリエステル
直径(mm)	φ16
長さ(m)※	6、8、10、12、15、20、30
引張強さ(kN)	23.0以上
提供形態	レンタル 販売

15mを超える親網は一般社団法人仮設工業会の認定制度がありません。

キョーワロック RKL (緊張器)



■特長

- ・緊張時や衝撃時にすべり、垂下量が少なく安全です。
- ・親網ロープを緊張することができます。

■用途

- ・高所作業における墜落防止

■製品規格

材質	ステンレス
質量(kg)	1.2
引張強さ(kN)	14.0以上
提供形態	レンタル 販売



※親網に安全帯を取付ける場合は、安全帯ランヤードを親網にまわし掛けをしないでください。



次に該当する場合は使用しないでください。

◆支柱用親網

- ストランドの山に10分の1以上の摩擦、破断がある。
- 薬品、汚れ、腐食、焼けこげ等により硬化、破損がある。
- キンクが生じた。
- フックが正常に作動しない。

◆緊張器

- ローブストッパー部分に傷がある。
- 可動部の動きが悪い。
- バネ等の部分が欠落、変形している。
- フックが正常に作動しない。

◆親網支柱

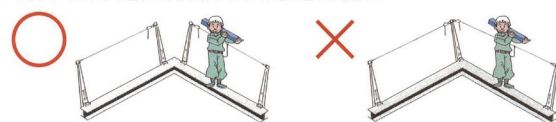
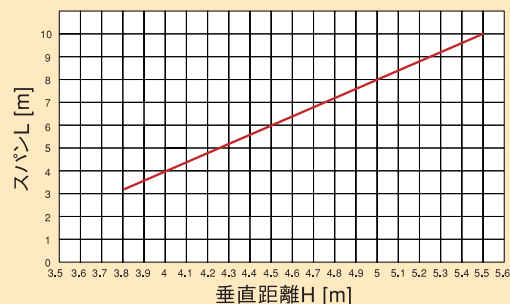
- 落下衝撃を受けた。
- 著しい変形、又は腐食等の破損がある。
- 締め付けボルトに損傷、又は付着物がある。

使用基準

- 支柱のスパンは10m以下とすること。
- 支柱を設置した作業床と、衝突のおそれのある床面又は機械設備との垂直距離(H)に応じて使用することのできる支柱のスパン(L)は、次式により算出した値以下であること。

$$L=4 \times (H-3)$$
 右表を参照してください。
- 安全帯は、安全性の確認されたものを用いて、安全帯のランヤードの長さを1.7m以内にして使用すること。
- 支柱用親網にワイヤロープを使用しないでください。
- コーナー部の支柱に平行方向と直交方向の2本支柱用親網を取り付けしないでください。

スパンと垂直距離の関係の表



使用基準・使用方法

■親綱支柱システムの使用方法

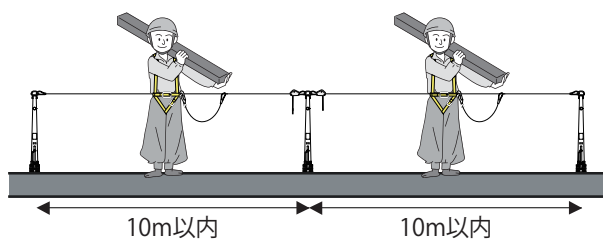
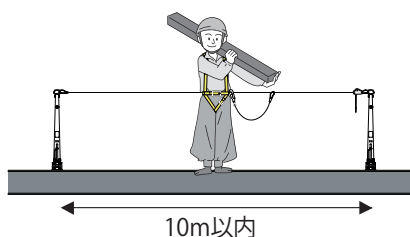
[1]適用

墜落災害防止のため、安全帯を取り付けるための設備として使用される水平親綱支柱システムを構成する親綱支柱・支柱用親綱・緊張器について適用する。

[2]親綱支柱の使用方法

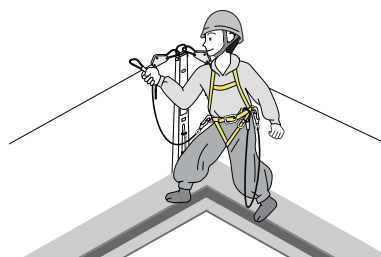
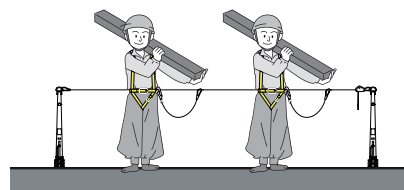
- ・支柱の奥まで鉄骨フランジに差し込み、締め付ボルトを十分に締めて下さい〔締め付トルク：6kN・cm以上〕
- ・安全帯は安全性の確認されたものを用い、安全帯のランヤードの長さを1.7m以内にして使用して下さい。
- ・支柱用親綱を固定する支柱のスパンは10m以下にして下さい。また、1スパン1人での使用として下さい。
- ・親綱支柱システムの使用可否は下表の通りです。

使用可



※落下阻止性能試験で安全を確認しています。

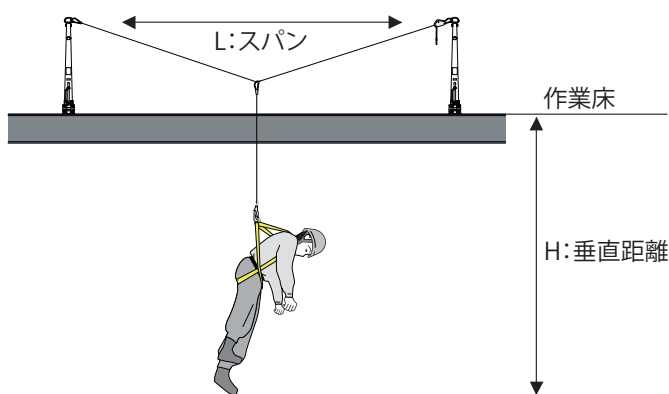
使用不可



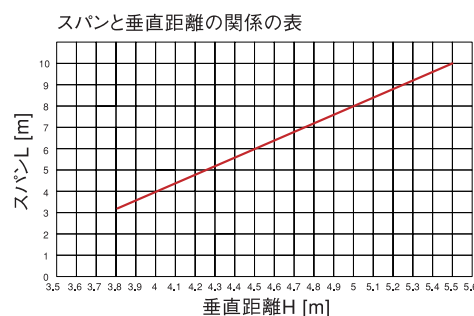
※親綱が連続しない箇所では、2丁掛け安全帯を使用して、フック掛け替え時に無胴綱状態を無くしてください。

○支柱のスパンと垂直距離との関係

支柱を設置した作業床と、衝突の恐れのある床面又は機械設備等との垂直距離(H)に応じて使用することのできる支柱のスパン(L)は、次式により算出した値以下であること。ただし、Hは3.8m以上を確保すること。



●一般社団法人仮設工業会発行 「墜落防止設備等に関する技術基準」より引用



$$L = 4 \times (H - 3)$$

L: 支柱のスパン(m)

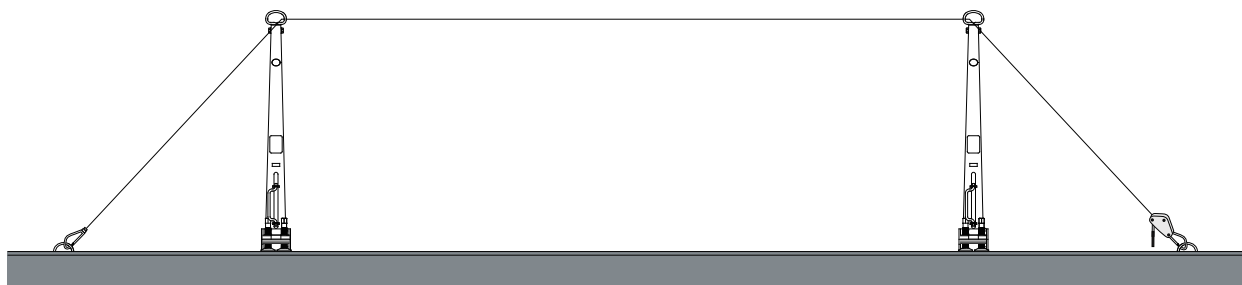
H: 作業床と、衝突の恐れのある床面又は機械設備等との垂直距離(m)

使用基準・使用方法

[3]親網の使用方法

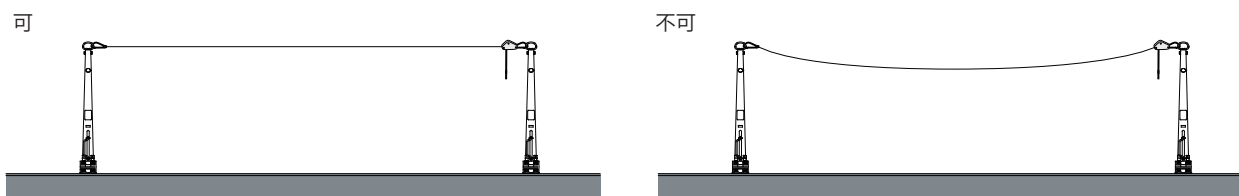
鉄骨ピースや支柱の親網保持金具へフックを取り付けて使用して下さい。

支柱用親網として使用する場合は親網の長さが15m以下で使用して下さい。(控え網含む)



[4]緊張器の使用方法

緊張器に親網を通し、親網を弛みが無くなるまで引っ張って下さい。



[5]仮設工業会認定基準

項目		性能	
親網支柱	落下阻止性能試験	支柱取付けスパン(m)	10
		落体(kg)	85
		ランヤード(m)	1.7
		親網(mm)	ワイヤロープ φ9
支柱用親網	支柱用親網フックの引張強度試験	落下阻止性能	親網保持金具から親網が離脱しないこと 支柱各部に折損※が無く、支柱が支柱固定治具から離脱しないこと。 (※親網保持金具の床からの高さが試験前の65%以下になった場合を折損とみなす)
		11.5kN負荷時	機能を失う程度に変形、損傷等がなく、 外れ止めの機能を維持すること
		荷重の最大値(kN)	14.0以上
		7kN負荷時の伸び率(%)	10以下
緊張器	緊張器の性能試験	切断荷重(kN)	23.0以上
		11.5kN負荷時	緊張機能を維持すること
		荷重の最大値(kN)	金具等を有するものは機能を失う程度に変形、損傷等がなく、 外れ止めの機能を維持すること 14.0以上

●一般社団法人仮設工業会発行 「仮設機材認定基準とその解説」より引用